

4. 節水促進要因について

4.1. 節水の大事さを知る上で大事なことー大事と思う経験 vs. 実経験

節水の必要性を 86.3%の 20 歳回答者が認識している。この節水の大事さを知る上で回答者は何を大事なことと考えているのだろうか。

表 16. 節水の大事さを知る上で大事だと思うことと実際の経験 (20 歳、30 歳)

	20歳 (n=400)		30歳 (n=400)	
	大事だと思う	実際の経験	大事だと思う	実際の経験
自分で家計のやりくりをすること	260	65.0%	156	39.0%
水道料金がいくらかかっているかを知ること	292	73.0%	222	55.5%
小学校や中学校の教室で環境教育を体験すること	130	32.5%	116	29.0%
湧き水を飲む経験をする	46	11.5%	67	16.8%
田んぼの風景を見ること	24	6.0%	105	26.3%
稲作・畑作体験をすること	24	6.0%	79	19.8%
渇水の体験をすること	141	35.3%	20	5.0%
断水の経験をすること	168	42.0%	50	12.5%
家族に繰り返し「節水しなさい」と叱られること	40	10.0%	56	14.0%
テレビや新聞等で、飲み水に困っている人々の存在を知ること	139	34.8%	130	32.5%
浄水場を見学すること	58	14.5%	128	32.0%
わからない	9	2.3%	13	3.3%
上記以外の経験	4	1.0%	2	0.5%
節水を大事だと思ったことはない	20	5.0%		
実際に経験したことはない			50	12.5%

図 7. 節水の大事さを知る上で大事だと思うことと実際の経験 (20 歳)

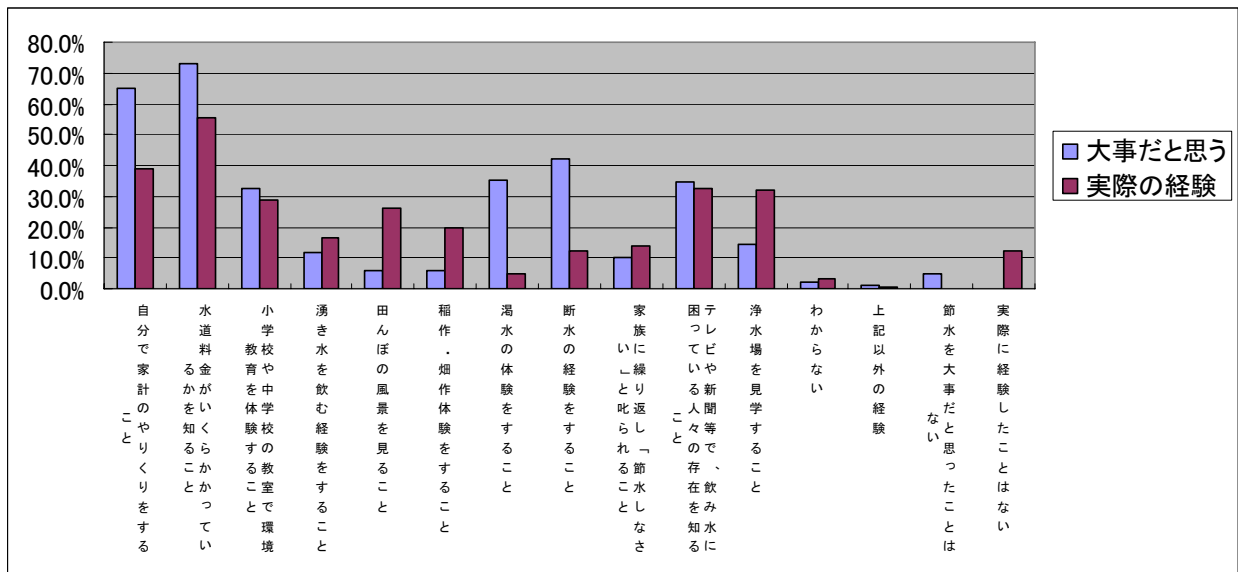
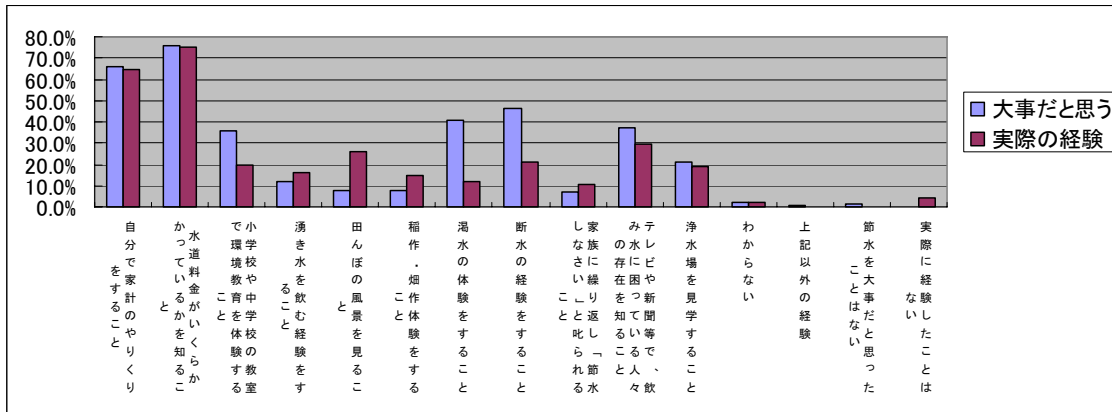


図 8. 節水の大事さを知る上で大事だと思うことと実際の経験 (30 歳)



20 歳の大事だと思うこと第一位は「水道料金がいくらか知ること」で 73%、第二位は「自分で家計のやりくりをすること」で 65%となっている。しかし、実経験とは差があることがわかる。

「水道料金がいくらか知ること」「自分で家計のやりくりをすること」という“節約”を意味する回答が最も多いことになるが、「断水の経験をすること」「渴水の経験をすること」という“稀少な水のありがたみを知ってもらう”という回答、さらには「テレビや新聞等で飲み水に困っている人々の存在を知ること」といった、“水の無駄使いを戒める”ことが大事だと思う回答が続いていることが特徴的だ。

20 歳と 30 歳とでは「大事だと思うこと」の構成比に大きな差が無いが、「大事だと思うこと」と「実際の経験」の間には 30 歳の方が総じて差が小さい結果となっている。

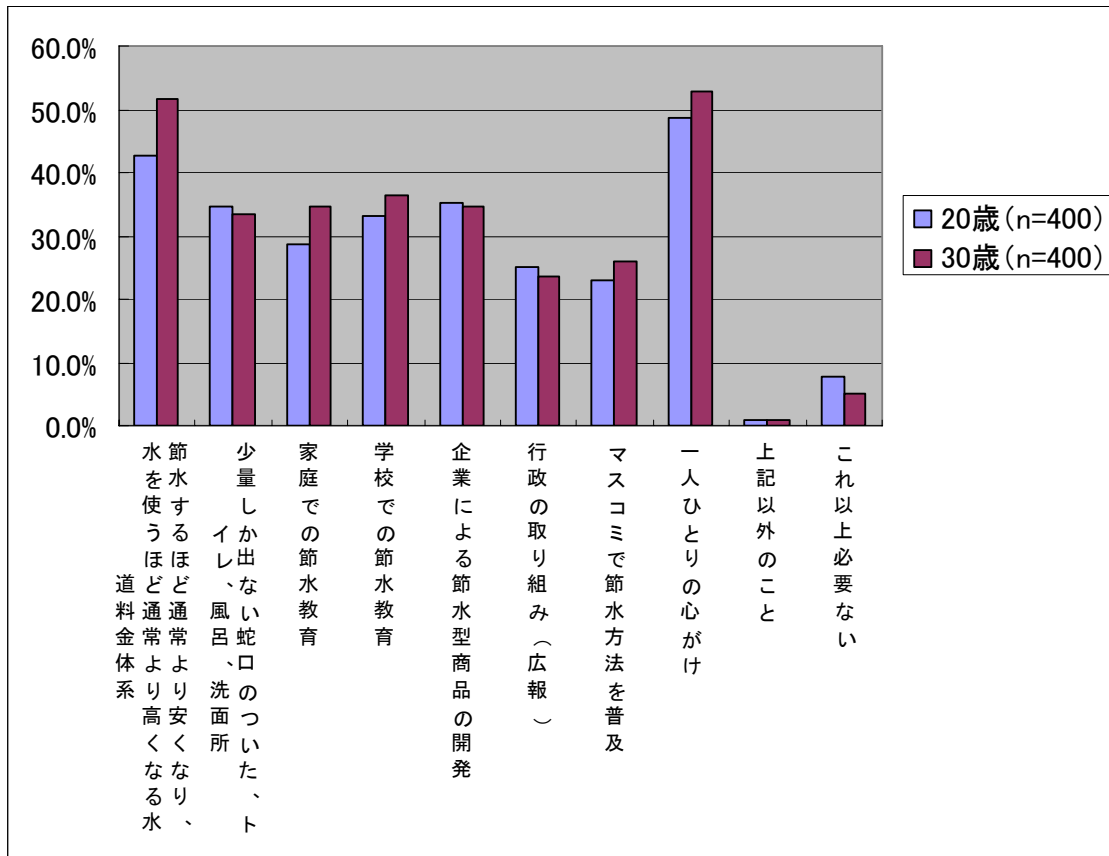
4.2.これから節水をさらに進める上で必要と思うこと

これから節水をさらに進める上で、20 歳は何を重要と考えているのだろうか。

表 17.これから節水をさらに進める上で必要と思うこと (20 歳、30 歳)

	20歳 (n=400)		30歳 (n=400)	
節水するほど通常より安くなり、水を使うほど通常より高くなる水道料金体系	171	42.8%	206	51.5%
少量しか出ない蛇口のついた、トイレ、風呂、洗面所	138	34.5%	134	33.5%
家庭での節水教育	115	28.8%	139	34.8%
学校での節水教育	133	33.3%	146	36.5%
企業による節水型商品の開発	141	35.3%	139	34.8%
行政の取り組み(広報)	100	25.0%	94	23.5%
マスコミで節水方法を普及	92	23.0%	104	26.0%
一人ひとりの心がけ	195	48.8%	211	52.8%
上記以外のこと	3	0.8%	3	0.8%
これ以上必要ない	31	7.8%	20	5.0%

図 9.これから節水をさらに進める上で必要と思うこと（20 歳、30 歳）



20 歳の一位は「一人ひとりの心がけ」で 48.8%、二位は「節水するほど通常より安くなり、水を使うほど通常より高くなる水道料金体系」で 42.8%となっている。

後者については、20 歳より 30 歳の方が 8.7%高い結果となっている。